

「地域で暮らすために・2」

第4回地域精神保健・福祉研究会

毎年夏に開かれる地域精神保健・福祉研究会は、「生活」ということを基本に据えながら、職種や立場性を越えて検討を続けてきた。「生活」ということについては誰もが当事者であり、自分の問題なのに、私たち1人1人はそのことをきちんと受け止めているだろうか。ここ数年取り上げてきた非日常の出来事であった阪神・淡路大震災と、震災で脆くも崩れてしまった生活の建直し、また精神障害者の人々の暮らし、そこから生活の本質を学び、自分自身の問題として問題解決をはかる努力をしてきただろうか。21世紀を目前にした私たちの大きな課題の1つに環境の問題がある。私たちが思い思いの生活をしながら徐々に破壊してきた自然、失って初めてその価値に気づくことが多く、取り返しがつかないものも多い。環境の問題も精神障害者を取り巻く生活環境の問題も、問題解決の道筋には共通点がある。先日長野県松本市で開かれた農村医学会のシンポジウムで、蟻ヶ崎西区町会長が、町会で取り組んでいる「地域大家族的」な町づくりについて報告し、「地域は家庭の拡大と考えます。1つ1つの家は家庭の個室です、町を通る道路は家の廊下です」と胸を張って発言された。この言葉の重さと力強さに感動を覚えた。